

社会科学習指導案

平成29年6月9日（金）

I 単 元 わたしたちの暮らしと安全—みずから守る！わたしたちの暮らし—

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

自然災害防止に向けた自身の取組を考え、問題を主体的に解決しようとする態度、地域社会の一員としての自覚と愛情

①知識・技能

地域社会における自然災害防止の取組への理解と、写真資料を用いたり聞き取り調査を行ったりして調べ、まとめる技能

②思考力・判断力・表現力等

自然災害防止の取組における公助や共助の働きと自助の大切さ、それらに関係する人々の工夫や努力を多角的に考えたり、被害減少に必要なことを選択・判断したりして表現する力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

(3) 本単元の学習とその価値

本単元は、水害防止の取組を調べ、公助や共助の働きと自助の大切さを考え、関係機関や地域の人々が協力して水害から人々を守っていることを理解する学習である。その価値は以下のとおりである。

自然災害の影響が比較的少ないと思われがちな前橋市でも、利根川水系河川の氾濫や土砂災害など、これまで多くの水害被害があった。近年はゲリラ豪雨、大型台風などによる河川の氾濫、土砂災害への警戒が高まっているが、被害件数は減少傾向にある。これは、行政による治水工事、災害伝達方法の多様化、消防署の対処と備え、地域住人の自主防災活動などによる所が大きい。これらの人々の取組を調べ、その工夫や努力と自分たちの生活とのつながりを見出すことで、人々が協力して自分たちの安全を守っていることを理解することができる。また、災害から暮らしを守るには「自分の身は自分で守る」という意識と行動が不可欠である。だからこそ、適切な行動によって危険を回避しやすい水害を扱うことは、前橋市の水害被害減少に必要なことを選択・判断し、自助の大切さを捉えることにつながる。そして、地域の防災を担う一人として自分ができることについて考えることは、前橋市の自然災害防止の取組への理解を深め、地域社会の一員としての自覚と愛情を培うことにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「水はどこから」で、市の浄水場や水源林の働きを調べ、そこに従事する人の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて考え、飲料水確保のための取組が、地域の人々の健康で良好な生活環境の維持・向上を担っていることを理解する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、4年「事こや事けんを防ぐ」において、警察と地域の人々の事故防止の取組を調べ、そこに従事する人々の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて考え、警察や地域の人々が協力して事故や事件の防止に努めていることを理解する学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 警察と地域の人々の事故防止の取組について写真や統計資料を用いて調べ、警察や地域の人々が協力して事故や事件の防止に努めていることを理解してきている。このような子どもたちが、水害防止に向けて消防署や市役所などが地域の人々と協力していることを理解できるように、前橋市の水害防止の取組について追究する学習問題と、鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を基に前橋市の水害被害減少に向けて取り組むべきことを追究する新たな学習問題を段階的に設定する。また、前橋市の水害防止の取組について、写真や統計資料に加えて、観察や聞き取り調査を基に調べられるように、消防署の現場学習や市役所危機管理室の方の話を聞く活動を設定する。
- ② 警察の働きとそこに従事する人々や地域の人々の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて多角的に考えられるようになってきている。このような子どもたちが、水害防止に向けた公助や共助の関係と働き、それらに関係する人々の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて多角的に考えられるように、市役所や消防署と地域の人々の工夫や努力を整理する図を用いて、前橋市の水害防止の取組の大切さをまとめる活動を設定する。また、前橋市の水害防止の取組について被害減少に必要なことを選択・判断し、自助の大切さを考えられるように、鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を基に前橋市の水害被害減少のために必要なことを考える活動を設定する。
- ③ 事故や事件から人々の安全な暮らしを守ることについての問題を主体的に追究することができてきている。このような子どもたちが、自然災害防止の取組についての問題を主体的に追究し、地域の防災を担う一員として自分にできることを考えようとする態度を養えるように、消防署や危機管理室の方に向けて自分自身の今後の取組について手紙を書く活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を基に、前橋市の水害被害減少に必要なことを話し合うことを通して、自助の大切さを踏まえた水害防止対策を考えることができる。
- 2 準備 付箋紙 電子黒板 公助と共助の工夫や努力を整理した図 学習プリント 短冊
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
-------------	---------

1 これまでの学習内容を想起し、新たな学習問題をつかむ。

- ・市役所や消防署の人々と地域の人々の取組があるから僕たちは安全なのだね。
- ・ひどい水害だね。でも前橋市は平気だよ。
- ・えっ、利根川でも同じことが起こるとしたら本当に安全なのか不安だよ。
- ・前橋市が同じような水害被害にあわないようにどんなことが必要になるだろう。

2 前橋市の水害被害減少のために必要なことを鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を基に考え、話し合う。

- ・鬼怒川流域で多くの被害が出たのは、避難指示が聞こえなかったことが原因の1つだから、より大きな音で放送することが必要だね。
- ・友達は、一人一人が避難指示を守ることが必要だと言っているよ。どうしてだろう。
- ・確かに、公助や共助が頑張っても、一人一人が水害防止の意識をもって行動しなければ被害は減らせないね。

3 前橋市の水害被害減少のために必要なことをまとめる。

- ・他のグループは、避難の仕方を家族で決めることを挙げているよ。これも公助や共助ではなく一人一人が行うことだね。
- ・公助と共助に加えて、一人一人の「自分の身は自分で守る」という意識と行動が水害被害を減らすことになるのだね。
- ・家に帰ったらハザードマップをもう一度よく見て、危険な場所や避難の仕方を家族と相談してみたいと思うよ。

4 本時の学習を振り返る。

- ・前橋市の水害被害を減らすために必要なことを、自助の大切さを踏まえて考えられたぞ。

○公助と共助が協力して暮らしを守っていることを想起できるように、公助と共助の工夫や努力を整理した図を提示する。

○前橋市の水害防止の取組に対する課題意識をもてるように、前橋市で起こりうる水害を警告する資料、鬼怒川流域の水害に関する写真と鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を示す資料を提示し、前橋市の水害被害減少のために必要なことを問いかける。

○根拠となる事実を明確にして考えを述べられるように、鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を踏まえて、前橋市に必要な取組を付箋紙に書くよう促す。

○今後の水害防止の取組について互いの根拠や解釈を補完・修正できるように、3、4人のグループを編制し、「より多くの課題点を解決できる」の視点でランキングするよう促す。

○グループの結論を全体で共有できるように、水害被害減少のために最も必要だと思うことを短冊に書き黒板に掲示するよう促す。

○自助の大切さに気付けるように、図中の短冊について、それぞれの担い手を問いかける。

○話し合いの結果を踏まえて学習問題の答えをまとめられるように、学習問題に対する自らの考えとその理由を書く時間を確保する。

評価項目

自助の大切さを踏まえて、今後の前橋市に必要な水害防止対策とその理由を記述したり、発言したりしている。

<学習プリント・発言②>

○本時の学習成果を実感できるように、新たな学習問題に対する自分の考えを導いたことを賞賛する。

指導と評価の計画（全12時間）

目標	前橋市の自然災害に対する公助や共助の働きと自助の大切さ、それらに関係する人々の工夫や努力を考え、関係機関や地域の人々が協力して自然災害から人々を守っていることを理解する。			
評価規準	①(知識・技能)前橋市の水害防止の取組について、関連機関や地域の人々が協力していることを理解している。 前橋市の水害防止の取組について、写真や統計資料、観察、聞き取り調査を基に調べ、まとめている。 ②(思考力・判断力・表現力等)前橋市の水害防止の取組について、問題や予想、学習計画を考えたり、消防署や市役所などの関係機関と地域の人々の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて多角的に考え、被害減少に必要なことを選択・判断したりして、表現している。 ③(学びに向かう力・人間性等)前橋市における水害防止の取組について主体的に調べ、水害からくらしを守るために自分にできることを考えようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○災害に関わる資料を基に疑問点や調べたいことを考え、課題意識をもつ。 学習問題 水害からわたしたちのくらしを守るために、だれが、どんなことをしているのだろう。	○前橋市の水害防止の取組について疑問点や調べたいことを考えられるように、前橋市の水害年表や集中豪雨の増加と被害の減少を示すグラフを提示する。	◇水害防止の取組について関心をもち、疑問点や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
	1	○学習問題について予想し、調べる計画を立てる。 <調べる観点> ・消防署や市役所の取組(公助) ・地域の人々の取組(共助)	○前橋市の水害防止の取組について予想できるように、水害に対処したり備えたりしている人々の写真やハザードマップを提示する。	◇既習内容や水害に関する資料を基に、水害防止の取組や、それらに関係する人々について予想したことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
追究する	4	○現場学習や聞き取り調査を基に消防署や市役所の人々の取組を調べる。	○消防署や市役所の人々の水害防止の取組を具体的に記述できるように、活動する場所ごとに分けて記述する学習プリントを用意する。	◇消防署や市役所の人々の水害防止の取組を活動する場所ごとに分けて記述している。 <学習プリント①>
	家庭	○家族に自分の住んでいる地域の自然災害防止の取組を聞き取り調査する。	○地域の人々の自然災害防止の取組を調べられるように、具体的な取組やその目的を記述できる学習プリントを用意する。	
	1	○地域の人々の取組を調べる。	○地域の人々が互いに協力し、消防署や市役所と連携しながら、水害防止の取組を行っていることを理解できるように、地域の自主防災関係資料や防災協力事業所の一覧表をまとめた資料、各家庭で聞き取ったことを基に工夫や努力を話し合う活動を設定する。	◇地域の人々が互いに協力し、消防署や市役所と連携しながら水害に備えていることを記述している。 <学習プリント①>
	2	○水害からくらしを守る取組の大切さについて自分の考えをまとめる。	○水害防止に向けた公助や共助の働き、それらに関係する人々の工夫や努力を自分たちの生活と関連付けて多角的に考えられるように、消防署や市役所と地域の人々の工夫や努力を整理する図を用意し、前橋市の水害防止の取組の大切さを市民のセリフとして吹き出しにまとめる活動を設定する。	◇前橋市の水害防止の取組の大切さを自分たちの生活と関連付けて図中の吹き出しにまとめている。 <学習プリント②>
	1	○ 前橋市の水害被害減少のために必要なことを話し合う。(本時) 新たな学習問題 前橋市で想定外の水害が起こった場合、人々の被害を減らすために、だれが、どんなことをすることが必要なのだろう。	○自助の大切さを踏まえて前橋市に必要な水害防止対策を考えられるように、鬼怒川流域の水害防止の取組における課題点を基に、前橋市の人々の被害減少のために必要なことをランキングしながら話し合う活動を設定する。	◇自助の大切さを踏まえて、今後の前橋市に必要な水害防止対策とその理由を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言②>
・ま生とかめする	2	○これまでの学習を振り返り、災害からくらしを守るための取組に対する自分の考えをまとめる。	○災害からくらしを守るための取組に自ら関わろうとする態度を養えるように、消防署や危機管理室の人々に手紙を書く活動を設定する。	◇災害からくらしを守るために、自分ができることを記述している。 <手紙>